

作物統計調査 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量 (東北)

— 10a 当たり予想収量は584kgの見込み —

【調査結果の概要】

1 令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は40万200ha（前年産に比べ3,000ha減少）と見込まれる。うち主食用作付面積は31万9,800ha（前年産に比べ1万600ha増加）と見込まれる。

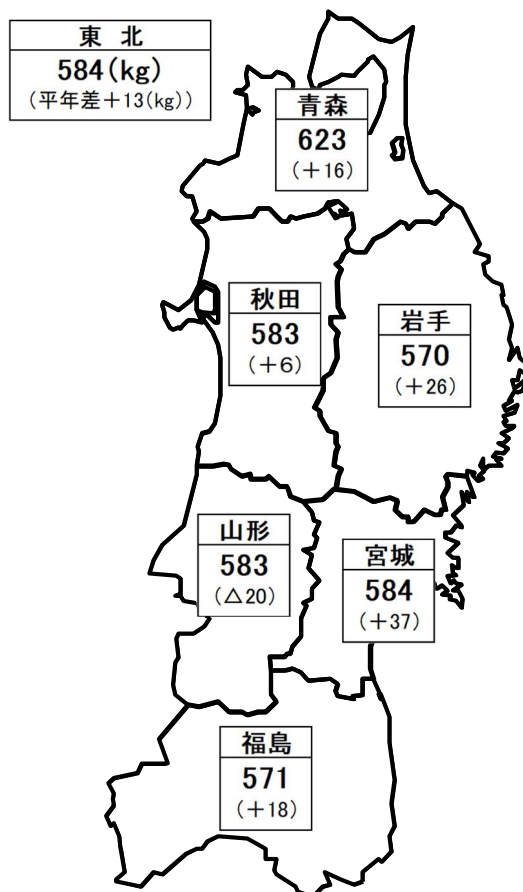
2 9月25日現在における水稻の10a 当たり予想収量は584kgと見込まれる。

これは、一部の地域で田植え後の低温や7月の日照不足等の影響があったものの、総じて天候に恵まれ、作柄は平年以上と見込まれるためである。

3 主食用作付面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は186万8,000t（前年産に比べ10万9,000t増加）と見込まれる。

4 農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は103と見込まれる。

図1 県別10a 当たり予想収量
(9月25日現在)
(1.70mmのふるい目幅ベース)



注：「△」は、減少を示している。

- 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等の面積を含む水稻を作付けした全ての面積である（4ページの【参考1】参照）。
- 主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である（4ページの【参考1】参照）。
- 10a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a 当たり予想収量は、その後の気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

【調査結果】

1 令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は40万200haで、前年産に比べ3,000ha減少が見込まれる。

また、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積を除いた主食用作付面積は31万9,800haで、前年産に比べ1万600ha増加が見込まれる。これは、飼料用米からの転換等があったためである。

2 9月25日現在における水稻の10a当たり予想収量は、584kg（平年に比べ+13kg）と見込まれる。

これは、全もみ数が、青森県及び山形県では、田植え後の低温や7月の日照不足により平年に比べやや少なくなったものの、その他の県では、田植え期以降おおむね天候に恵まれ平年並み以上となったことに加え、登熟（もみの肥大、充実）が、各県とも出穂期以降おおむね天候に恵まれ平年並み以上と見込まれるためである。

3 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は186万8,000t（前年産に比べ10万9,000t増加）と見込まれる。

表 令和6年産水稻の作付面積、9月25日現在の10a当たり予想収量及び予想収穫量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量			主食用 作付面積	予 想 収 穫 量 （主 食 用）
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	平年との比較	前年産との比較		
		対 差	対 比		対 差	対 差		④=②×③
	ha	ha	%	kg	kg	kg	ha	t
東 北	400,200	△ 3,000	99	584	13	15	319,800	1,868,000
青 森	48,700	△ 600	99	623	16	9	37,200	231,800
岩 手	52,800	△ 500	99	570	26	19	43,100	245,700
宮 城	73,000	△ 500	99	584	37	18	58,400	341,100
秋 田	88,000	△ 500	99	583	6	31	72,200	420,900
山 形	66,800	△ 600	99	583	△ 20	△ 6	52,400	305,500
福 島	70,800	△ 500	99	571	18	10	56,500	322,600

注：1 ①作付面積（青刈り面積を含む。）とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等の面積を含む水稻を作付けした全ての面積である。

2 ②10a当たり予想収量及び④予想収穫量（主食用）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 ③主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である。

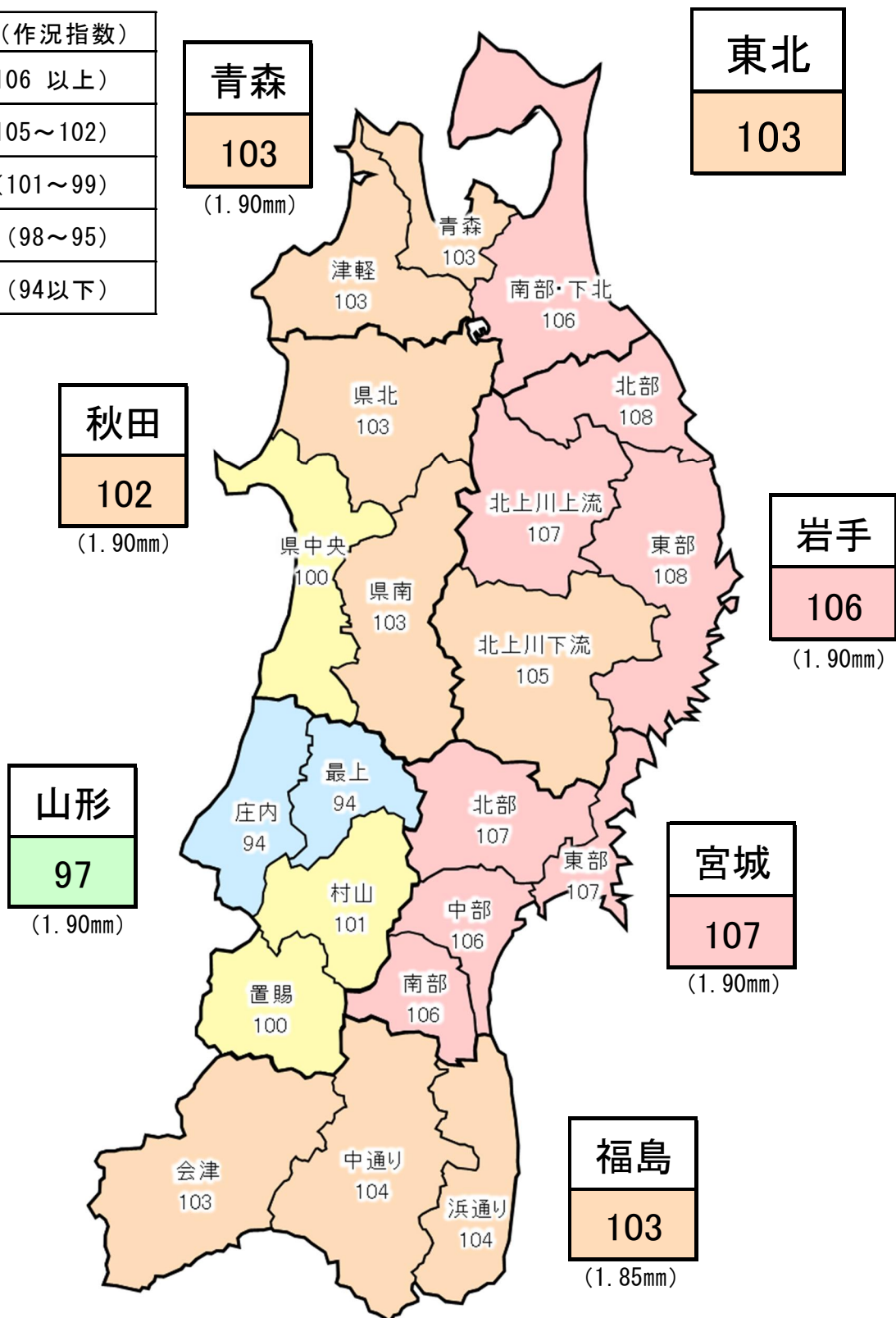
4 東北の①作付面積（青刈り面積含む。）及び③主食用作付面積は、県ごとの積上げ値と一致しない場合がある。

5 東北の④予想収穫量（主食用）は、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算値と一致しない場合がある。

6 「△」は、減少を示している。

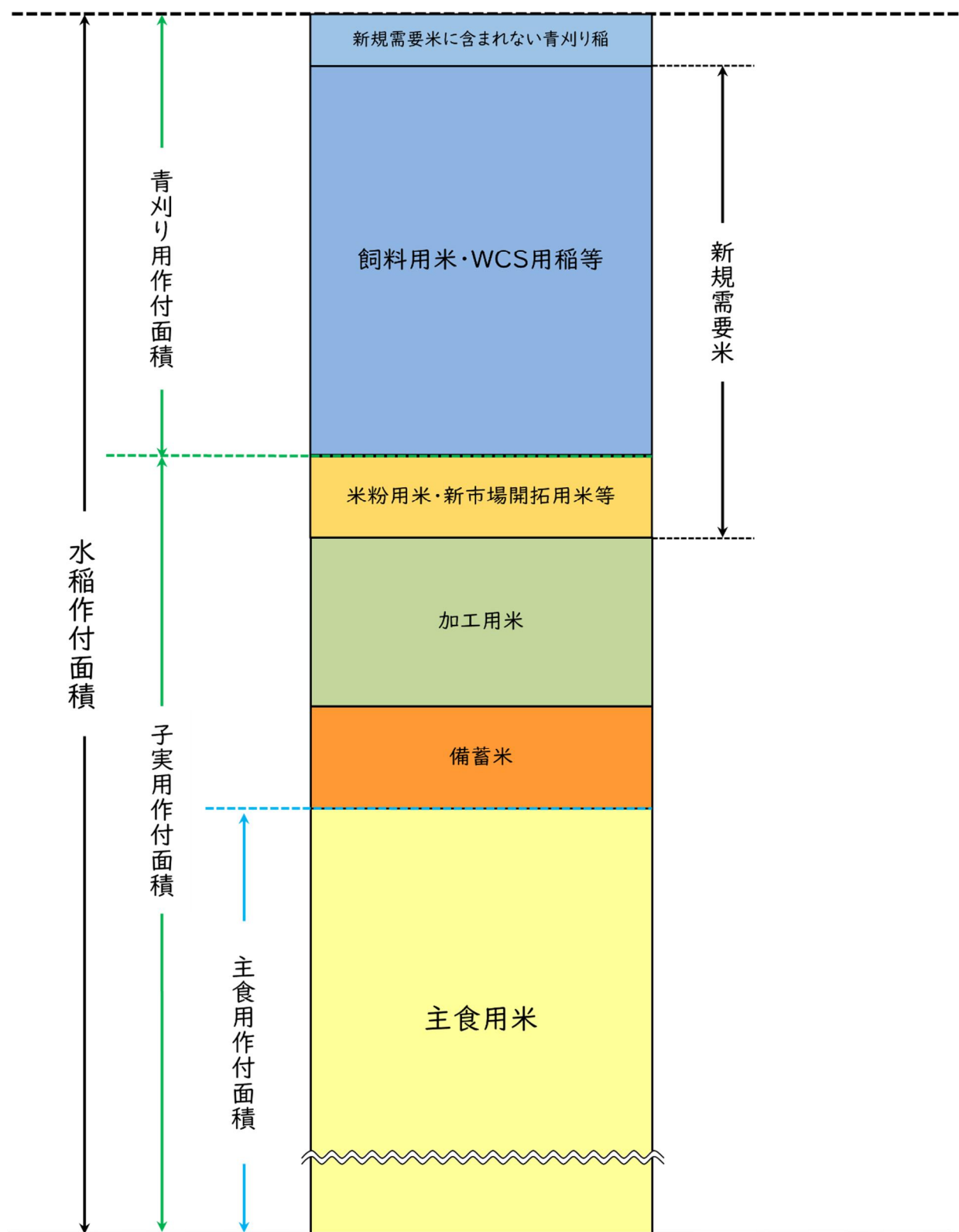
図2 県・作柄表示地帯別作況指数（9月25日現在）
（農家等が使用しているふり目幅ベース）

区分	作柄の良否（作況指数）
	良（106 以上）
	やや良（105～102）
	平年並み（101～99）
	やや不良（98～95）
	不良（94以下）



注： 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率であり、県ごとに、過去5か年（平成30年産～令和4年産）に農家等が使用したふり目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県は1.90mm、福島県は1.85mm）で選別された玄米を基に算出した数値である。なお、東北は、県ごとの作付面積及び予想収量を積み上げて算出した数値である。

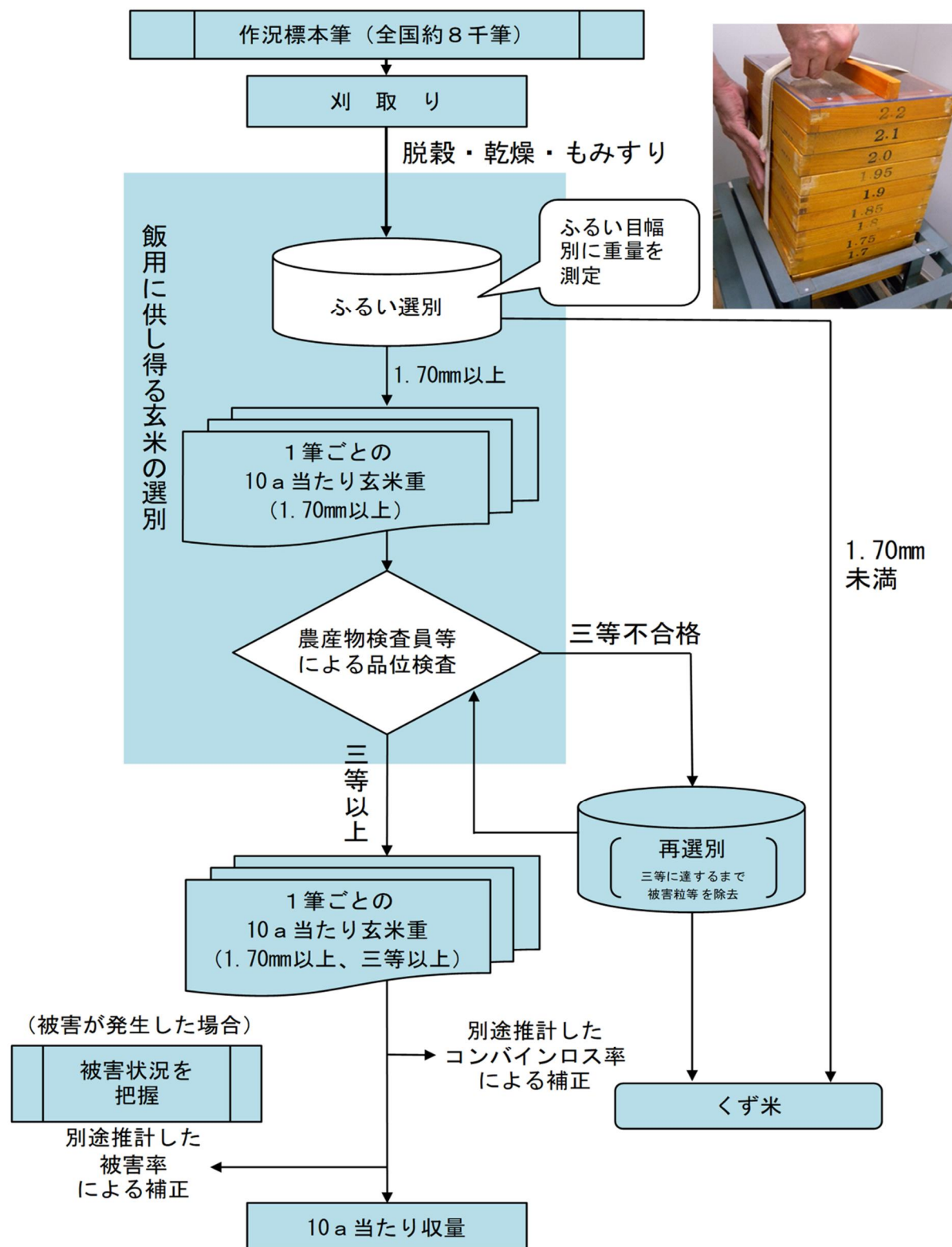
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

収穫量調査の流れ

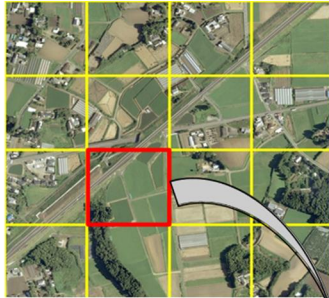
収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）^{ふで}は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



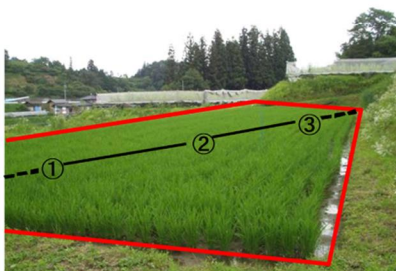
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】

https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/kekka/sakumotu/sakkyou_kome/index.html

【調査の概要】

- ・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

- ・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 全国の農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/>



- ・ 全国の結果は、農林水産省ホームページの「統計情報」に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3



- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和7年2月予定）します。
- ・ 次回（10月25日現在）の公表は、令和6年11月中旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

各都道府県の生育状況等：米ネット（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）＞
水稻の生育状況・技術情報リンク集

<https://www.komenet.jp/linkshuu/suitolink/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

東北農政局 統計部 生産流通消費統計課

電 話：（代表）022-263-1111 内線4727

（直通）022-745-9379

◎農林水産統計全般について

東北農政局 統計部 統計企画課

電 話：（代表）022-263-1111 内線4713

（直通）022-745-9378



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬～令和7年 2月末 農林業経営体調査

令和7年 1月中旬～令和7年 2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025

